

令和七年度（2025年度）

京都女子大学大学院文学研究科国文学専攻
博士前期課程入学試験（秋季）試験問題

一般選抜

専門科目

一、問題一～五の中から三題を選んで解答しなさい。うち二題は、希望する専攻分野に関する問題、国語学に関する問題（問題四）を選択し、残りの一題は、任意に選択しなさい。

国語学領域志望者は、国語学に関する問題（問題四）と、残りは任意の二題を選択しなさい。

- | | | | |
|-----|---------|-----|---------|
| 問題一 | 古代・中古文学 | 問題二 | 中世・近世文学 |
| 問題三 | 近代・現代文学 | 問題四 | 国語学 |
| 問題五 | 漢文学 | | |
- （※選択した問題の番号を○で囲みなさい）

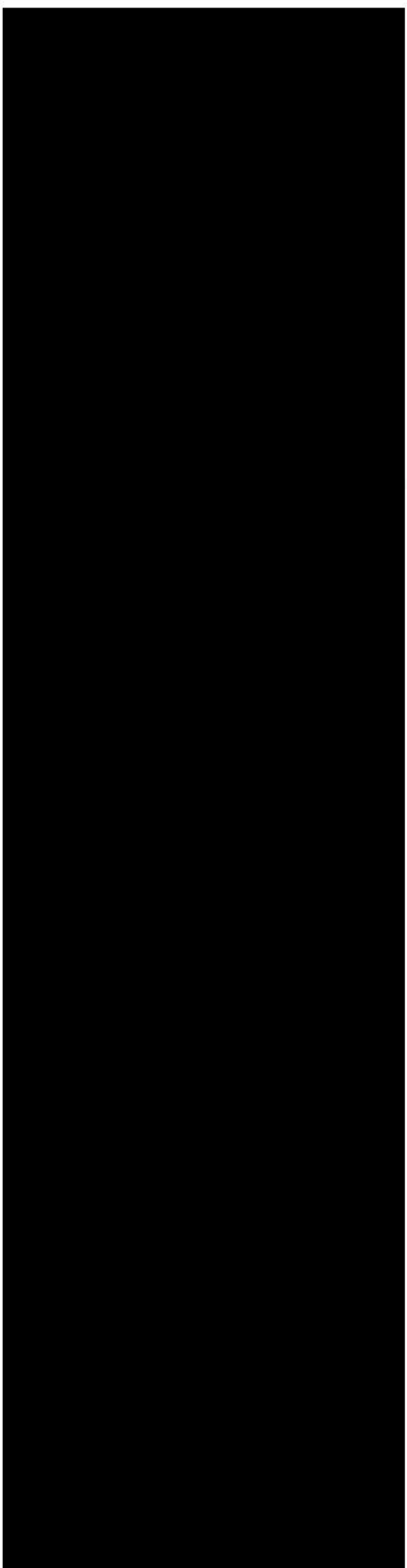
二、解答は、指定の解答欄、あるいは解答用紙（別紙・罫紙）に記入しなさい。

三、解答欄が不足するときは、裏面を使用しなさい。その場合、必ず（裏面に続く）と記入すること。

受験番号	氏名

問題一（古代・中古文学） 次の文章は、新古今時代を記録した『源家長日記』の部分です。読んで後の問いに答えなさい。

（1）



（2）



問一、―― a 「父の入道」について、以下の問いに答えなさい。解答は漢字で正しく記入すること。

1、誰のことを指しているのか、氏名を答えなさい。

2、この人物が選んだ勅撰和歌集の書名を答えなさい。

問二、和歌①②に共通して用いられている――「風待つ露」が比喻するものが何かを答えなさい。

問三、―― b 「この一節を思ひ置くな」について、何を「思ひ置く」と詠んでいるのか、その内容を明らかにしながら現代語訳しなさい。なお、この箇所には掛詞が用いられているので、それも訳に反映させてください。

問四、―― c 「遂げられ侍りにき」とは、誰が何を遂げたのかを説明しなさい。

問五、―― d 「糸に縊る」は、「糸に縊る物ならなくに別れ路の心細くも思ほゆるかな」（『古今集』羈旅・四一五・貫之「東へまかりける時、道にて詠める」）を引歌としています。この歌を引用して表現しようとしている作者の状況・心情とはどのようなものか、説明しなさい。

問六、―― e 「此の新古今の果てを見せたてまつらぬが、死出の山路も易くは越え給はざるらむかし」を、主語・目的となる人物を明らかにしながら現代語訳しなさい。

受験番号（

）

問一

1
2

問二

--

問三

--

問四

--

問五

--

問六

--

受験番号 ()

問題二（中世・近世文学） 次の[A]の文章は、ある中世古今集注釈書が『古今和歌集』仮名序の一節について記述したもので、続く[B]は、賢女の逸話を集めた仮名草子作品『女郎花物語』の一節です。いずれも、「我もしか」の歌を含んだ同様の話を取り上げています。なお、[B]の前半部は、京都女子大学図書館が所蔵する『女郎花物語』写本の影印を掲げています。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

[A]

[B]

受験番号（

問一 「我もしか」の歌について、解説しなさい。

--

問二 [B]前半の影印部分を翻字しなさい。

--

問三 [A][B]はそれぞれ、いかなることを意図して、「我もしか」歌を含んだ話を取り上げているのか、説明しなさい。

--

問四 仮名草子について、知るところを述べなさい。

--

（問題二 おわり）

二〇二五年度 京都女子大学大学院文学研究科（博士前期課程） 国文学専攻秋季専門科目試験問題
問題三（近代・現代文学）

受験番号（

※設問及び解答欄は二枚目の用紙にも続くので注意すること。二枚目にも受験番号欄があるので忘れずに記入すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。



（中山弘明『学問史』としての近代文学研究』による）

問一

線部 i・ii の漢字の読み方を、（ ）内に平仮名・現代仮名遣で記入せよ。

i 標榜（

）

ii 俯瞰（

）

（二枚目の設問・解答欄に続く）

問二 問題文二行目

線部「ハクソウ」について、次の(一)～(三)の各問いに答えよ。

- (一) カタカナを漢字に直して記入せよ。
 (二) この語の意味を簡潔に説明せよ。
 (三) この語が意味する神崎清の行動が描かれている箇所を問題文中から探し、自分の言葉に置き換えてその行動を具体的に説明せよ。

問三

線部 a h のカタカナを、漢字(楷書)に直して記入せよ。

a	b
c	d
e	f
g	h

問四

線部 A に、神崎の『少女文学教室』(『文学教室』)が、雑誌『少女之友』からの依頼によって執筆されるようになった経緯が記されている。『少女之友』には、(少女小説)と称される小説類が掲載され、それらの小説では、当時の女学校やその寄宿舎などを舞台に、そこに在籍する間の人生の限定的な時間を、少女たちが社会から隔絶された空間で女同士の連帯を育みながら生きた様が描き出されることが多かった。そういった背景と照らし合わせた時、神崎の『少女文学教室』のこういった性格が浮き彫りになるか、論述せよ。

問五

線部 B の島崎藤村の文学活動について、具体的な作品名を挙げながら知るところを述べよ。

問六

線部 C 「木村の現代的意義」とあるが、木村曙の『婦女の鑑』について、問題文で述べられていることを手がかりに、その「現代的意義」について説明せよ。但し「労働と教育を結びつけ」といった問題文中の言葉をそのまま利用するのではなく、自分の言葉に置き換えて説明すること。

問七

線部 D 「漱石について触れたこんな言葉」とあるが、それが書かれた状況を考慮した時、神崎のこういった姿勢が窺えるか、簡潔に説明せよ。

問八

問題文末尾、引用文中の X に入る適切な慣用句を答えよ。

問一 次の①②の中から一つを選択し、説明しなさい。

- ① 「上代特殊仮名遣」について。
- ② 「係り結び」について。

選択問題番号（ ）

[illegible]

問二 次の①②の中から一つを選択し、説明しなさい。

- ① 「單綴語と複綴語」について。
- ② 現代の国語の「コソアド語彙」について。

選択問題番号（ ）

[illegible]

問題五（漢文学）

次の文章は、林梅洞（一六四三～一六六三）の遺稿を、父鷲峰（一六一八～一六八〇）が書き継いで完成させた、王朝詩人の逸話集『史館茗話^{しかんめいわ}』の第七〇話です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

注1 扶桑^{しやうそう}とは中国の東方の太陽の出る所にあるという神木の名で、その神木が生えている所としての日本を指すようになるが、ここでは太陽の意。

注2 乍^{しや}「忽」に同じ。

注3 菟裘^{とせう}は戦国時代の魯の隠公が隠居しようとした地の名で、官を辞して隠居する地を指す。

注4 晏駕^{えんか}は「崩御」に同じ。

問一 傍線部Aを現代語訳しなさい。「台嶺」の語をわかりやすく言い換え、主語を明示すること。

問二 傍線部Bの対句を書き下しなさい。句ごとに改行すること。なおこの対句のみ返り点を省いています。

問三 傍線部Cを現代語訳しなさい。会話文は、鈎括弧で括弧すること。

問四 傍線部Dを書き下しなさい。

問五 傍線部Eの行為の理由を述べなさい。

問六 兼明親王の「菟裘賦」の全文は『本朝文粹』巻一・賦に、傍線部Bの対句は『和漢朗詠集』巻上・秋・蘭に収められています。『本朝文粹』又は『和漢朗詠集』について、知るところを述べなさい。いずれを選んだのかを明示すること。

（問題五 おわり）

問一

問二

問三

問四

問五

問六

